

# イベント実施報告

## ウッキウッキな一年になりますように！！～干支の交代式～

街の雰囲気もすっかりお正月へ変わった平成27年12月26日(土)、27日(日)に今回で3回目となる「干支の交代式」を実施しました。ヒツジ(サフォーク種)と一緒に登場した飼育員が、「コアラやホワイトタイガーなど、新しい命が誕生しました。2016年はふれあいゾーン、ニホンザル舎、どうぶつ学習館のオープンがあるので楽しみに！」と一年を振り返ると、サルに扮した飼育員が「皆さんにとってウッキウッキな一年になるようがんばります!!」と返しました。



▲サルさん、一年間よろしくね!!



▲みんなでウッキウッキ!

## 動物園の新たな一面を実感！！～大人のための飼育体験教室～

平成27年11月23日(木)と12月23日(水)に18歳以上を対象とした「大人のための飼育体験教室」を開催しました。飼育体験で動物の世話をしっかりしてもらった後、標本観察を行ったり、動物病院で行っている健康管理について知っていただきました。また、座学「動物の魅力を伝える」では、午前中に世話をした飼育動物の魅力を簡潔にまとめるという作業をしていただきました。「かわいい!」だけではない魅力をどのように表現するか苦戦していた様子でしたが、午前の作業内容を振り返るよいきっかけになりました。

動物園では動物のこと、彼らが息している環境のこと、そしてそれを守るために何が出来るかを様々な形でお伝えしています。今後も、大人ならではの視点や感性で動物園の取り組みを知っていただけるような内容を用意していきます。



▲動物が過ごしやすいように枝を組みます



▲キリンの頭の骨ってこんななんだ～!

# ず〜 Zooっと平川

特集1

アビシニアコロブス

特集2

オジロワシが来園しました



鹿児島市 平川動物公園

〒891-0133 鹿児島県鹿児島市平川町5669-1  
 TEL.099-261-2326 FAX.099-261-2328  
 ■開園時間:午前9時~午後5時(入園は午後4時30分まで)  
 ■休園日:12月29日~1月1日  
 URL <http://hirakawazoo.jp/>  
 Facebook <https://ja-jp.facebook.com/hirakawazoo>

携帯サイトへ  
アクセス!



編集・発行



〒892-0816 鹿児島市山下町15番1号  
 TEL.099-221-5055 FAX.099-223-5690  
 URL <http://k-kouenkousya.jp>  
 Facebook <https://ja-jp.facebook.com/k.kouenkousya>

特集1

# アビシニアコロブス

White-mantled Black Colobus



アビシニアコロブス 学名: *Colobus guereza*  
霊長目オナガザル科 英名: Eastern Black-and-white Colobus  
ナイジェリア、エチオピア、ケニアなどの中央及び東アフリカに広く分布し、森林や樹木の生えた草原地帯の樹上などに生息しています。昼行性で時には20頭を超える群れになりますが、基本は1頭の成熟したオスと3~4頭のメスや仔で生活しています。天敵はヒョウなどの木に登ることができる大型の猛獣ですが、稀にチンパンジーに襲われることもあります。寿命は約20年です。



## 動物園での一日のエサ

リンゴ、バナナ、食パン、ピーマン、ニンジン、キャベツ、ペレット(固形飼料)、木の葉など

## 木の葉が主食~リーフイーター~

木の葉を主食としている霊長類の仲間をひとまとめにして「リーフイーター」とよびます。動物園では安定して一定量の葉を用意するのが難しいので果物や野菜も与えていますが、木の葉を与えると樹皮まできれいに食べてしまいます。特にネズミモチが好きです。

Before



After



## 木から木へジャンプ!

アビシニアコロブスは木から木へ跳び移って移動します。白く長い尾やマントの様な背中の毛を揺らして飛び姿はとてもきれいです。

## お尻が痛くないヒミツ! ~尻だこ~

樹上性なので、ほとんどの時間を木の上で過ごします。枝の上に安定して座れるようにお尻の皮膚が硬くなった「尻だこ」があります。



## 赤ちゃんと親と群れの仲間

アビシニアコロブスは子育てをする際、母親だけでなく群れの他のメスも赤ちゃんを抱きます。授乳時にはきちんと母親に戻します。生まれたばかりの赤ちゃんは親と異なり毛が真っ白です。成長するにつれて親と同じ色になります。



▲2015年8月30日に生まれたラン(メス)です。



▲赤ちゃんの尾はまるでエビフライのようです。

## 飼育員からひとこと

長くてきれいな尾やマントの様な毛など見ているだけで何か神秘的なものを感じます。飼育員になって初めて動物の出産、子育てを経験できた動物です。これからも赤ちゃんの成長を見守るとともに、群れの管理に取り組んでいきます。ぜひかわいい赤ちゃんの姿を見に動物公園へ来てください。

担当者:望月、堤

申年  
特別企画!

平川動物公園

# サルウオツチングポイント

## サルってどのような動物?

みなさんは「サル」というとどんな動物を思い浮かべますか？サルは哺乳類の仲間で、分類上の正式名称は霊長類とよばれています。我々人間もこの霊長類の仲間になります。一口に霊長類といっても世界中には300種類以上もあり、体の大きさ、形、模様など種類によって様々です。今回は平川動物公園のサル舎で飼育されている霊長類について見ていきましょう。

## 体の構造



尾

中には尾を手のように器用に使う種類もあります。他にも尾のない種類や自分の臭いをまき散らすために尾を使う種類があります。

頭

手先が器用なため脳が発達し、他の動物よりも体の割に大きな脳を持っています。

目

目は顔の正面側について、ものを立体的に見るのに適しています。外敵やエサ、跳び移る木の枝、仲間との距離感を正確に把握する必要があるからです。

顔

基本的に私たち人間同様、顎が突き出ていませんが、種類によってはまるでキツネの様な顔をしている種類もいます。またとても派手な顔をした種類もいます。

手足

手と足でものを掴むことができるので木の上でも自由に動けます。親指と他の4本の指が向かい合っているのも、ものを掴むことができます。

## 長い手

サル舎で飼育しているジェフロイクモザルとシロテテナガザルは、他の霊長類に比べて体の割に手がとても長いです。この長い手を使い、自分を振り子のようにして移動していきます。これにより、枝の多い木の上でも素早く移動することができます。この移動方法を「ブラキエーション」といいます。



シロテテナガザルは、一生のほとんどを木の上で生活します。ブラキエーションでスイスイ移動します。



ジェフロイクモザルも木の上で生活しています。ブラキエーションの時に必要のない親指がありません

## 模様注目

額にオレンジ色の三角形模様があるブラッサグエノンや、歌舞伎役者のようなマンドリルなど、平川動物公園だけでも様々です。



ブラッサグエノン

世界で最も美しいといわれています。額の三角模様は大人になると現れます。



マンドリル

鮮やかな顔は強いオスである象徴であり、深い森で仲間を確認できるためでもあります。

## 鳴き声も様々

鳴き声でコミュニケーションをとる仲間がいます。サル舎で飼育している霊長類も鳴き声を使ってコミュニケーションをとりますが、特徴的なのはシロテテナガザルとエリマキキツネザルです。



シロテテナガザル

オスとメスで「デュエット」と呼ばれる鳴き交わしをします。



エリマキキツネザル

大きな声で鳴き、縄張りを示します。怒っているように聞こえますが、これが普通なのです！

## 長くしなやかな脚

「サルは木に登る」というイメージが強いと思いますが、地面を走るのが得意な霊長類がいます。これらの種は手と脚の長さがほとんど変わらず、走ることに特化しました。平川動物公園ではパタスザルとサバンナモンキーが代表です。



パタスザル

時速 55kmで走ることができ、霊長類の中で最速です。



サバンナモンキー

平地に生息し、主に走って移動します。

## どこにいるの?

霊長類の仲間は熱帯と呼ばれている暖かい地域に広く生息しています。では、地球上で最も寒いところ(北)に生息している霊長類は何だと思いませんか？実は、私たち日本人に馴染みの深いニホンザルなのです。



地球上で最も北に生息しているニホンザルは海外では「スノーモンキー」と呼ばれています。

## 飼育員からひとこと

いかがだったでしょうか。今回紹介した霊長類はサル舎で飼育している一部です。平川動物公園では21種類の霊長類を飼育展示していて、体の大きさ、形、模様、鳴き声、しぐさ、臭いなど、種の違いを比べてみることもできます。皆さんが少しでも霊長類に興味を持ち、新しい発見ができるようこれからも頑張りますのでどうぞよろしく願いいたします。

担当者: 望月、堤

# ホワイトタイガーの成長と旅立ち

2015年11月2日、ホワイトタイガーのタイガ(オス、7才)とコハク(メス、7才)の間に5頭の仔トラが生まれました。3頭は未熟児や病気のために死亡してしまいましたが、2頭のメスは11月4日に母親から取り上げて人工保育に切り替え、すくすくと成長していきました。その後、2頭はオーストラリアのドリームワールド(動物園と遊園地の複合テーマパーク)のコアラと交換することになり、2016年2月15日、オーストラリアへと旅立って行きました。この2頭の誕生から旅立ちまでの成長の記録を紹介します。



**1:誕生**  
 ギャーギャーという元気な鳴き声とともに誕生しました。目は開いておらず、立ち上がることもできないため、這いずり回って移動します。生まれて間もないうちに母親のお腹にある乳首を見つけ出し、母乳を飲み始めます。



**3:授乳**  
 ネコ用の粉ミルクを哺乳瓶で飲ませます。このとき、本能で前足を動かしておっぱいを押し、お乳を出そうとする動きをします。飲んだ後は、背中を軽く叩いてゲップを出させます。



**2:人工保育へ切り替え**  
 生後3日目に1頭が未熟児のため死亡し、他の仔トラも生存が危ぶまれたため、生存率を高める目的でメス2頭を母親から取り上げるようになりました。母親から離れ、新たな寝床となった段ボールの中で寄り添うように過ごしていました。この時の体重は1,270gでした。



**4:排泄の介助**  
 母親と一緒にいるときは、母親がお尻をなめて排泄を促します。人工保育では、タオルをお尻に軽く当て刺激し、排泄を促します。



**5:体調管理**  
 体調管理のため獣医師が診察を行います。診察以外にも血液やレントゲンの検査、病気を予防するためのワクチンの注射などを行います。



**7:開眼**  
 生後16日目に開眼しました。周りが見えるようになり、動きがより活発になっていきました。



**6:取材対応**  
 たくさんの報道関係者に囲まれ取材を受けました。緊張する様子もなく、元気にミルクを飲む姿を披露してくれました。



**11:検疫**  
 オーストラリアへ旅立つ前に、病原体などを持っていないか確認するため、園内の動物病院で約30日間、検疫(※)を行いました。外から病原体を持ち込まないよう細心の注意を払いながら給餌や体調管理などを行いました。検疫中、2頭は検疫室から外に出ることができないため、我慢が必要な期間でしたが、体調を崩すことなく検疫を終えてくれました。

※検疫とは海外から持ち込まれた、もしくは海外へ持ち出す動物・植物・食品などが、病原体や有害物質に汚染されていないかどうかを確認することをいいます。港灣や空港で行われることが多いですが、今回は園内の動物病院で行いました。



**8:お散歩**  
 開眼すると歩行練習のため、お散歩を始めました。最初の頃は後ろ足でしっかり立てず、ふらつきながらの歩行となりましたが、外で思いっきり体を動かせる喜びが伝わってくるようでした。




**9:ミルクタイム**  
 生後40日目からミルクを飲む姿を一般公開するミルクタイムを始めました。多くの来園者の方々が見に来てくださいました。



**12:旅立ち**  
 生後105日目、平成28年2月15日の早朝、ついに旅立ちの時を迎えました。体重は15kg程に成長し、体つきもトラらしくなってきました。オーストラリアのドリームワールドまで約30時間の長旅になるため、出発前にミルクをたっぷり飲み、お肉もたくさん与えました。2頭いっしょにケージに入り、いよいよ出発です。寂しい気持ちもありますが、ドリームワールドで幸せに、そして人気者になってくれることでしょう!



W h i t e t i g e r 

## ホワイトタイガーのトレーナー サイモンさんにインタビュー

この交換に先立ち、ドリームワールドの飼育員であるサイモン・マリーさんが、飼育技術指導のため来園しました。そこで、はるばるオーストラリアから来園されたサイモンさんにドリームワールドなどについてインタビューさせていただきました。



みなさん、はじめまして。私はオーストラリアのクィーンズランド州のゴールドコーストに妻と子供3人で暮らしています。ドリームワールドはオーストラリアで最も大きなテーマパークでゴールドコーストにあります。ドリームワールドは、動物と様々な体験ができる動物園や絶叫マシンなど各種乗り物をそろえた遊園地施設、そして大型プールが集まったテーマパークです。

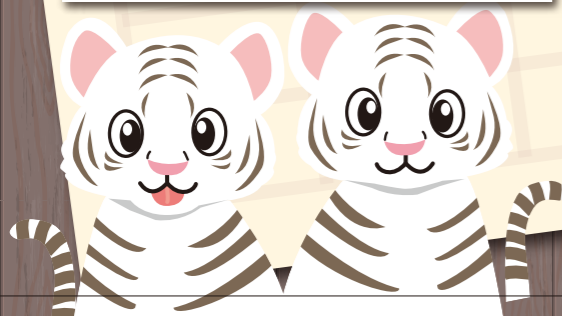
私は1990年からドリームワールドで働き始め、1995年からトラの飼育を担当しています。2002年にはタイガーアイランドというトラのパフォーマンスを行う施設の管理者となり、現在は9人のトレーナーとともに12頭のトラと2頭のピューマを飼育管理しています。

タイガーアイランドでは、トレーナーは毎日大規模な展示場でベンガルトラやスマトラトラと遊んだり、くつろいだりすることで信頼関係を築いているため、トラたちと触れ合うことができます。お客様は、幼獣のお世話体験や記念撮影、散歩をすることができます。

私たちは、1995年から今まで11回トラの人工保育に取り組んできました。それは信頼と敬意の絆を形成するために行っています。一貫したトレーニングを行うことで、安全かつ自信を持って育て上げた成獣と接することができます。

ドリームワールドでは、野生動物保護のため基金を発足させ、200万オーストラリアドル(約1億6,500万円)以上がスマトラ島や極東ロシアでのトラ保護計画のために寄付されています。この基金はドリームワールドの体験アトラクションの料金やお客様の寄付により成り立っています。

今回、平川動物公園で生まれたホワイトタイガー2頭がドリームワールドに来ることになりました。平川動物公園の皆さんと協力して仔トラの人工保育や検疫の作業を行い、無事にドリームワールドへ連れて行くことができました。そして、この大切な2頭を立派な成獣へ育て上げたいと思います。



いってらっしゃい!  
ようこそ!

## 動物の移動を紹介します。

2015年の秋に、繁殖を目的とした動物の移動がありました。今後の繁殖に期待したいと思います!



### コフラミンゴの旅立ち

1994年11月14日に来園したコフラミンゴの「フー」を2015年12月1日に繁殖目的の為に、宮崎市フェニックス自然動物園へ搬出しました。

フライングケージ(面積1900㎡)で6種類56羽の仲間と暮らしていました。美しいさくら色の「フー」は、フライングケージでの人気者でした。ただ、当園でのコフラミンゴは1羽のみだったため、繁殖は望めませんでした。そこでコフラミンゴが多数飼育されている、宮崎市フェニックス自然動物園への移動を計画しました。

担当者としては「すみ慣れた場所で、種は異なりますが、長年一緒だった仲間たちの中で過ごす」と「同じフラミンゴの新しい仲間たちと過ごす」と、どちらがフーちゃんにとって幸せなのか迷いました。しかし、フラミンゴは「群れで生きる動物」です。そこで不安もありましたが、フーちゃんを送り出すことにしました。

12月1日、ついにお引越し当日です。朝一番で捕獲し、ケガをしないように柔らかい段ボールでできた輸送箱へ収容しました。21年間過ごしたフライングケージを出発です。

約3時間後に、宮崎市フェニックス自然動物園へ到着。体重測定を行い、足環(左一黄銀)を取り付け放します。少し心配しましたが、すぐにフラミンゴの群れへ近づいていき、数分後には水を飲みました。そして群れへ合流。群れの中で一員となるフーの姿を見て、こちらに連れて来て良かったと思いました。新しい仲間と幸せでありますように!



▶宮崎市フェニックス自然動物園ではすぐに群れに近づきました!



◀ダンボールで作った輸送箱

担当者: 森山、牟禮

## 特集2

# オジロワシが来園しました

平川動物公園では、1羽のオジロワシ(オス、コジロー26才)を飼育していました。

1995年の来園時からメスの「キャン」と同居していましたが、2013年1月17日に、キャンが死亡。その後は1羽で飼育していました。

新たに来園したホタル(メス、年齢不詳)は2011年1月25日に根室市内でケガをして環境省釧路湿原野生生物保護センターに保護されました。



2015年10月2日に来園し長旅の疲れも感じさせず、北海道と鹿児島・全然違う気候にもすぐに慣れ元気に過ごしています。

11月10日、隣の部屋同士でお見合いがスタートしました。30分ほどすると、コジローがホタルに気付き今までより甲高い声で、キャキャキャと鳴きました。今までに聞いた事のない声だったので、「誘惑の鳴き声？」と胸をふくらませました。

次の日から、1日に何度も何度も鳴く姿が見られ、来園者からも「鳴き声を初めて聞いた！」という声をたくさんいただきました。

12月15日には同居を開始しました。

移動の際には爪や嘴で攻撃されるとケガをするので、皮手袋もしっかりします。

同居もスムーズに進み、ケンカもなく、ホッとしました。

最近ではコジローの鳴き声にホタルも鳴き返す行動が見られます。

また、飼育員手作りの愛の「巣」も完成しました。野生下での巣は直径1.5mほどありますが、展示場の巣は少し小さめです。それでもホタルは気に入ったのか最近では、巣に入る姿がよくみられます。2世誕生にご期待くださいね。



担当者：野元、河野

# 2016年春、

# いよいよフルオープン!!

平川動物公園では平成 21 年度から 7 年計画で「人と動物が共存し、環境にやさしい動物公園」「南国鹿児島らしい特色ある動物公園」を基本方針としたリニューアル整備を進めてきました。アフリカ園前の足湯のオープンを皮切りに、来園者や動物が過ごしやすい環境の整備を整え、「ふれあいゾーン」「世界のサルゾーン(ニホンザル舎)」「どうぶつ学習館」の完成で、いよいよフルオープンとなります。

ニホンザル舎では屋久島に生息するヤクシマザルが活発に遊ぶ様子をご覧いただけます。どんな動きを見せてくれるか楽しみですね！

ふれあいゾーンでは、ウサギなどをさわることができるタッチングコーナーの他、ヒツジやロバをはじめ鹿児島の在来種であるトカラウマやトカラヤギとふれあうことができます。動物たちとのふれあいを通して命の大切さを感じてみてください。

そして新たにオープンする「どうぶつ学習館」では、図鑑、物語、専門書等で疑問に思ったことを調べることができます。もちろん、スタッフが常駐しているので質問することもできますよ！また、最大 200 名を収容することができるレクチャールームでは、学校等の団体向けワークショップや、各種イベントを行います。雨の日は昼食会場としても利用できますので、調べ物をしに、ちょっと休憩をしに、どうぞお気軽にお越し下さい！



「ニホンザル舎」



「ふれあいゾーン」



平成 28 年度より、公益財団法人鹿児島市公園公社が鹿児島市から委任され、動物の飼育管理・展示を含めた全ての動物公園内の業務を行うことになりました。また、今年は前身である鴨池動物園が開園してから 100 年を迎えます。これまでの歴史を大事にしながら、動物や皆さんがより過ごしやすい動物公園を目指して職員一同がんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。